

楽しみさらだボール子育て情報



「遊びは生活」
令和6年6月12日号
板橋富士見幼稚園



会話を楽しもう

幼児が言葉を覚えて使えるようになるためには、どんなことが必要なのでしょう。

毎日、生活の中の節目ごとに語り掛けられる言葉や使用する言葉は、ルーティーンの中で繰り返され、早く習得されます。

「おはよう」「こんにちは」「バイバイ」「いただきます」「ごちそうさまでした」「ちょうだい」「いらない」「あげる」「かして」「いれて」などなど、比較的早い年齢から覚えて使い始めます。

一方で、普段あまり使わない言葉は、どのようにして覚えていくのでしょうか。

子どもは“大人言葉”といわれる大人同士の会話を、聞いて学びます。「うちの子は」「〇〇先生は」「〇〇って、ひどいのよ」「〇〇って……」など、親や周りの大人の何気ない言葉を数回聞き取るだけで、不思議なことに再現して使い始めることが多々あります。それは、今まで知らなかった言葉に強く関心を持つことで、記憶しようと無意識に集中するからです。

お話し上手な親の子どもは、お話し上手になります。そして楽しい大人の夢ある語りは、子どもの言葉を豊かに育てます。

笑顔で「美味しいね」「楽しいね」、笑いながら「やってみようか」「食べてみようか」、足踏みしていることに対しても、時にはひょうきんに演じながら自己肯定感に結びつく言葉の投げかけをすることで、その子の前向きな心押し出すことができます。

是非、ご家族で、言葉のキャッチボールを楽しんでみてください。



【アゲハ蝶の旅立ち】

園庭のみかんの木で生まれたアゲハ蝶の幼虫。お部屋で大切に育て、先日無事に蝶になりました。クラスで話し合っ、外に逃がしてあげることに。

みんなで旅立ちの瞬間を見守りました。「元気でね、また遊びにきてね！」

